

地震・津波について 知ろう

震度と揺れ等の状況

南海トラフ巨大地震が発生したとき、田辺市では最大震度7が予想されています。



津波に関する警報と注意報

津波による災害の発生が予想される場合には、気象庁より「大津波警報」「津波警報」「津波注意報」が発表されます。

	発表される津波の高さ	るべき行動	想定される被害
大津波警報 (特別警報に位置付け)	数値での発表(津波の高さを予想する区分) 目安地図の場合の発表		
10m超(10m+予想高さ)	巨大	海岸や河川といいいろいろな場所へ避難して下さい。 津波は繰り返し戻ってくるので、津波警報が解除されても安全な場所への避難を続けて下さい。	木造家屋が全壊・流失します。 ●人は津波による流れに巻き込まれます。
10m未満(予想高さ10m)			●海拔の低いところでは津波による海水被災が発生します。 ●人は津波による流れに巻き込まれます。
5m未満(予想高さ5m)			●海の中には人は速い流れに巻き込まれます。
津波警報	3m未満(予想高さ3m)	ここから安心と思わず、より高い場所を目指して避難しましょ!	●海の中では人は速い流れに巻き込まれます。
津波注意報	1m未満(予想高さ1m)	(表記しない)	海の中にいる人は、ただちに海から上へ、海岸から離れて下さい。 津波は繰り返し戻るまで海岸に入ったり、海岸に付いたりしないでください。

●震源が陸地に近いと津波警報が間に合わないことがあります。「握ったら避難」を徹底しましょう。●震源は沖縄部の海などでの影響により震源の予測よりも高くなる場合があります。より高い場所を目指して避難しましょう。●地震発生後、予想される津波の高さが20cm未満でも津波の警報が発せられる場合、または津波注意報の解除後も海面変動が継続する場合には、「津波予報(岩の海面変動)」が発表されます。●予想される津波の高さは、通常は5段階の値で発表されます。ただし、地震の規模(マグニチュード)が8を超えるような巨大地震の場合、最初に発表する大津波警報や津波警報では、予想される津波の高さを「大」や「高い」という言葉で発表され、非常事態であることを伝えられます。

一人ひとりが行う 自分自身の防災活動

自助・共助・公助

防災・減災のキーワードとして、「自助」「共助」「公助」という言葉がよく使われます。自助とは「自分の身は自分で守る」こと、共助とは「家族・近所でお互いに助け合い地域を守る」ことを指します。また、公助とは「公的機関からの救助や支援」を指しています。災害の発生を完全に予見し防ぐことはできませんが、自助・共助・公助が連携し、効果的に機能することで、被害を減らすことが可能となります。

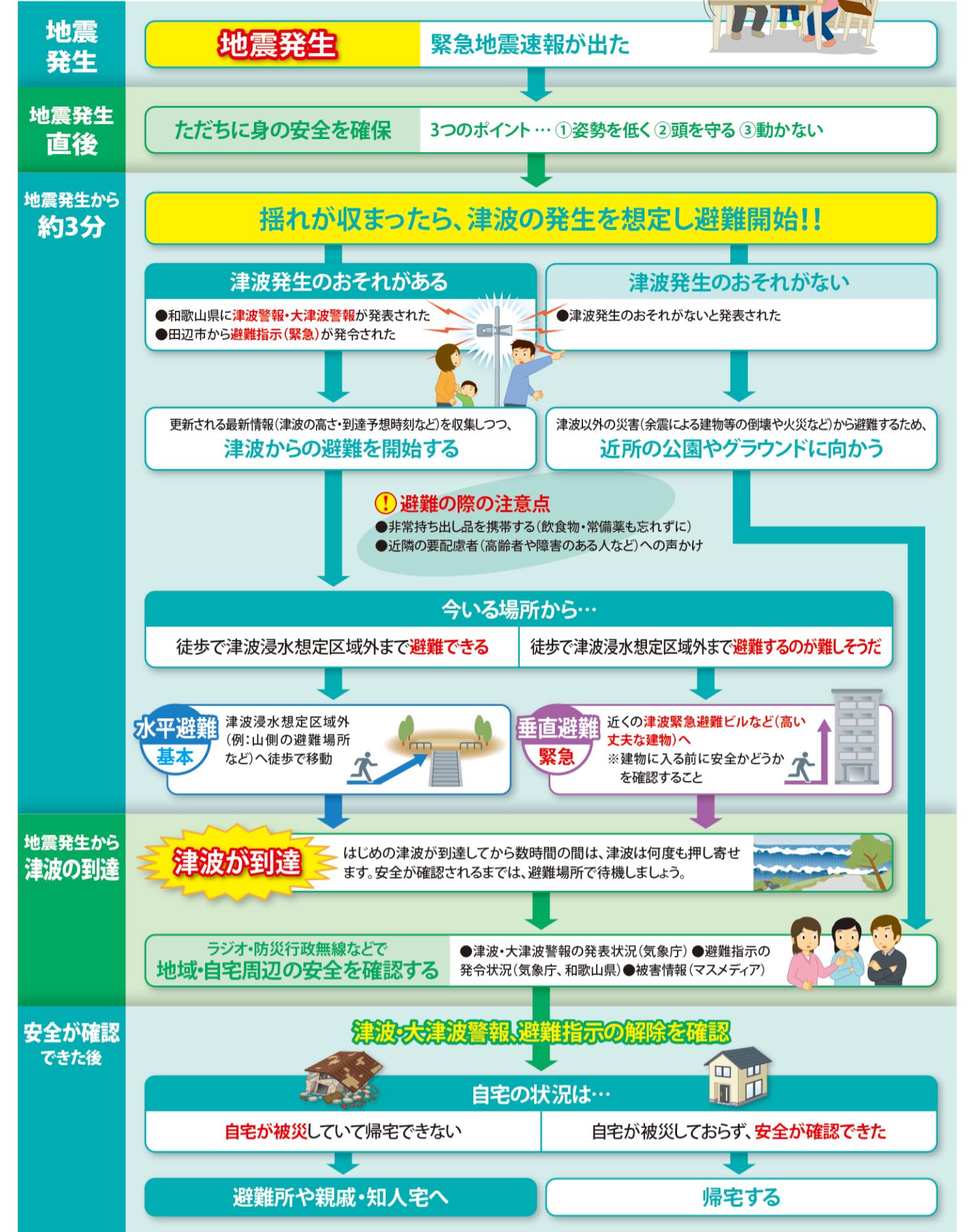


今すぐできる地震対策

地震によって建物が倒壊しない場合でも、大きな家具の転倒やガラスの飛散などにより、ケガをしたり、閉じ込められたりするおそれがあるので、今すぐ地震対策をしましょう。



地震・津波から 身を守るポイント



避難経路を想定して マイマップを作ろう

マイマップの作り方

地震はいつ起こるかわかりません。いろんな場面において地震や津波が起きた場合に備えて、家族みんなの避難先(裏山、高台、公園など)時に身を守るために緊急避難する場所を確認しておきましょう。また、表面の津波避難マップに、自分が避難する場合を想定した避難情報を書き加えて、より具体的な避難行動イメージできるようにしておきましょう。

マイマップの記入例(表面:津波避難マップ)

①自宅や学校、勤務先等をチェック

まず、津波避難マップであなたの自宅や学校、勤務先を探して、予測されている被害の有無(津波浸水想定区域に入っている、危険箇所がある等)を確かめましょう。

津波の浸水範囲にかかる道路や橋、地下道、狭い道路は避けるコースを設定しましょう。



②避難先と避難経路を決める

次に、目標とする避難先を確認して、避難先までの経路を考えておきましょう。

津波の浸水範囲にかかる道路や橋、地下道、狭い道路は避けるコースを設定しましょう。

日頃からの備えが大切 非常持ち出し品・連絡方法など

非常持ち出し品の準備

災害が発生したときは、すぐに避難しなければいけません。避難する場合に備えて、リュックサックなどに必需品をまとめ、持ち出しやすい場所に保管しておきましょう。

食料

- 飲料水(1人1日2~3リットルを目安)
- 非常食(缶詰、乾パン、レトルト食品など)
- 携帯食(チョコレート、キャンディーなど)
- 粉ミルクと哺乳瓶(赤ちゃんがいる場合)
- アレルギー対応食品(アレルギーがある場合)

衣類など

- 衣類(厚手の物と薄い物)
- 下着類
- タオル、毛布
- 手袋、軍手
- 寝袋
- 雨具

貴重品

- 現金(小銭も必要)
- 預貯金通帳、印鑑
- 傷病、消毒薬
- 持病のある方の薬
- ヘルメット、防災ずみん
- ハイツル
- 体温計
- 消毒液

日用品など

- ボリ袋(ビニール袋)
- 新聞紙
- ろそく、ライター
- 洗濯用具
- メガネ
- マスク
- エコティッシュ
- 液体電池(予備電池)
- 紙おむつ
- 携帯ラジオ(予備電池)
- 生理用品

「循環備蓄(ローリングストック)」を心がけましょう

循環備蓄とは、備蓄食料・飲料水などの保存期限が切れる前に消費し、その分だけ新たに補充して常に一定量のストックがある状態を保つことをいいます。定期的に古い備蓄品から消費することで無駄を出さず、また、いざというときに期限切れで使えなくなることを防ぎましょう。

災害時の連絡方法・情報の入手先

災害時の連絡方法を家族で確認しておきましょう。また、田辺市の「防災・行政メール」を登録しておきましょう。

災害伝言ダイヤル ①⑦①

電話を用いて安否情報(伝言)の録音・再生を行なうことができます。

田辺市防災行政情報システム「防災・行政メール」

気象警報や避難情報などの災害に関する情報をメールでお知らせします。
登録方法……
①「registerousaiyousei.aamilkis.jp」にEメールを送信します。(メールアドレスが仮登録されます)
②その後に登録確認メールが送られてきますので、そのメールに記載されておりますURL(ホームページアドレス)にアクセスします。
③確認ページが表示されますので登録を完了させます。
④その情報が発信された場合に防災・行政メールとして送られています。
登録用 URL: http://www.city.tanabe.lg.jp/

みんなで助け合う 地域の防災活動

自主防災組織の役割

自主防災組織とは、「自分たちのまちは自分たちで守る」という、地域住民の連携に基づき、結成される防災組織のことです。自主防災組織は、災害発生時に、お互いの身を守るために、平時からの防災訓練を含めた防災活動を行います。災害時に効果的な活動ができるよう、住民一人ひとりが防災に関する正しい知識を共有し、各家庭で災害に備えるとともに、地域住民が一団となり防災活動へ取り組むことが重要です。

日常の活動例

●防災知識の普及

防災講演会の開催、防災チラシの発行など。

●地域の危険箇所等の把握

災害危険箇所・防災上有効な施設の把握、地域防災マップの作成など。

●防災訓練

情報伝達・避難、避難場所開設・運営、初期消火、応急手当、給食・給水訓練など。

●防災資機材の整備

防災活動に必要な資機材の整備や確認など。

●避難行動要支援者への支援

避難行動要支援者への情報提供・避難支援。

●情報収集・伝達活動

防災関係機関・地域内の情報収集・伝達。

●防災に関する地域のコミュニケーション

防災場所での食料・飲料水、救援物資の配給、炊出し。

災害時の活動例

●初期消火活動

地震時の出火防止、火災が拡大するまでの初期消火、消防隊が到着するまでの延焼拡大防止。

●避難誘導

正確な情報による安全な避難経路を確立するための避難誘導。

●救助・救援活動

負傷者の救出や火災現場の重傷者、重傷者の搬送。

●避難行動要支援者への支援

避難行動要支援者への情報提供・避難支援。

●情報収集・伝達活動

防災関係機関・地域内の情報収集・伝達。

●給食・給水活動など

避難場所での食料・飲料水、救援物資の配給、炊出し。

避難行動要支援者の手助けをしましょう

避難行動要支援者は、一般に高齢者や障がい者、乳幼児や妊娠婦、日本語を十分理解できない外国人など、災害時に時間にかかる方々のことです。地域で協力し合いで、近所の要支援者の方の安否確認や避難場所への避難を支援しましょう。

高齢者・病人

●おぶたり、リヤカーに乗せたりして安全な場所で避難する。

●複数の介助者で対応する。

肢体の不自由な方(車椅子)

●階段では車いすが必要。上りは前向き、下りは後ろ向きにして移動する。

●介助者が1人の場合、ひもなどを用意し、おぶって避難する。

耳の不自由な方

●耳をハッキリと開け、相手にわかりやすいようにする。

●手話、筆談、身振りなどの方法で正確な情報を伝える。

御所谷(瓦町)(出立本町)・古尾 地区における主な避難場所と避難経路

